

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	小児看護学概論			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	2 年	A・B	1 (15)	講義	令和7年度前期
科目目標・単元目標 小児の成長・発達及び家族や社会における小児の特性を理解し、小児看護の目的・役割を理解する。					
授業概要 子どもは将来に果てしない可能性と希望をもつ存在として社会を構成する大切な一員である。しかし子どもが成長・発達するには長い年月がかかる。生物学的・教育学的視点から環境面から更に子どもの権利の視点から日常的な保育や養育、教育に対して積極的・的確な働きかけが重要となる。現在の子どもと家族の視点から小児看護の役割と課題を思考する。					
卒業時到達目標との関連 DP- ①・②・3・4・5・6・7・8・⑨・10・11・12					
回数	時間	授業内容			
1	2	I 小児看護の特徴と理念 1小児看護のめざすところ 1)小児看護の対象 2)小児看護の目標と役割			
2	2	2 小児看護の変遷 3 小児看護における倫理			
3	2	4 小児と家族の諸統計 1)わが国の人口構造 2)出生と家族 3)子どもの死亡			
4	2	II 子どもと家族を取り巻く社会 1児童福祉 2母子保健			
5	2	3医療費の支援 4予防接種 5学校保健			
6	2	III 家族の特徴とアセスメント 1子どもにとっての家族とは 2家族アセスメント 3現代社会と小児の健康問題 虐待			
7	2				
8	1				
9		講義、終講試験			
【テキスト・参考書】 ・小児看護学概論/小児臨床看護総論、医学書院 ・国民衛生の動向				【成績評価の方法】 ■ 筆記試験	

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	小児の成長発達と看護			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	1 年	A・B	1 (30)	講義	令和7年度後期
科目目標 小児の成長・発達段階に応じた特徴を理解するとともに、それに応じた小児とその家族に対する日常生活の援助と健康増進の援助を理解する。					
授業概要 小児の成長・発達の特徴を各月齢・年齢ごとに理解する。さらにその特徴がどのように発達を遂げていくかを経時的に理解する。発達の特徴に合わせてどのような支援が必要か、個人ワークやグループワークで考えを深める。					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・②・3・4・5・6・7・8・⑨・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	I 小児看護の特徴と理念 1 小児看護のめざすところ 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標と役割	9	2	10 乳幼児期に多い事故及び事故防止
2	2	II 子どもの成長・発達 1 成長・発達とは 2 成長・発達の進み方 3 成長・発達に影響する因子 4 成長・発達の評価	10	2	VI 学童期 1 形態的特徴 2 身体生理の特徴 3 感覚機能・運動機能
3	2	III 新生児 1 形態的特徴 2 身体生理の特徴 1) 呼吸 2) 循環 3) 体温 4) 黄疸 5) 免疫 6) 神経系 他	11	2	4 知的・情緒機能 5 社会的機能 6 不適応行動・症状 7 学童を取り巻く諸環境 8 学童の養育及び看護
4	2	3 新生児の養育及び看護	12	2	VII 思春期・青年期 1 形態的特徴 2 身体生理の特徴 3 知的・情緒的・社会的機能 4 生活の特徴
5	2	IV 乳児 1 形態的特徴 2 身体生理の特徴 3 感覚機能 4 運動機能	13	2	5 心理・社会的適応に関する問題 6 飲酒・喫煙 7 性に関する健康問題 8 反社会的・逸脱行動 9 思春期の看護
6	2	5 知的機能 6 コミュニケーション機能 7 情緒・社会的機能 8 乳児の養育及び看護	15	2	VIII 遊びの意義と発達
7	2	V 幼児 1 形態的機能 2 身体生理の特徴 3 感覚機能 4 運動機能			
8	2	5 知的機能 6 コミュニケーション 7 情緒・社会的機能 8 幼児の養育及び看護	【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ ワークへの参加度		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	小児援助論Ⅰ			担当講師	専任教員・外部講師	
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期	
第一看護学科	2 年	A・B	1 (30)	講義	令和7年度後期	
科目目標						
健康障害をもつ小児とその家族の特徴を理解し、その状況に応じた小児と家族の看護の基本を習得する。						
授業概要						
健康障害をもつ小児と家族の特徴と看護について概観し、治療・処置、疾病の経過に応じた看護について考える。 乳幼児のバイタルサインズの測定や身体計測の基本を理解する。病児の看護における清潔の援助について、小児の成長発達段階や病態、家族の調整もふまえた援助方法を検討する。						
卒業時到達目標との関連						
DP- 1・2・3・4・⑤・⑥・⑦・⑧・9・10・11・12						
回数	時間数	授 業 内 容		回数	時間数	授 業 内 容
1	2	Ⅰ 病気・障害をもつ小児と家族の看護 1 病気・障害が小児と家族に与える影響		10	2	Ⅴ 障害のある子どもと家族の看護 1 障害のとらえ方 2 障害のある小児と家族の特徴 3 障害のある小児と家族の社会的支援
2	2	Ⅰ 病気・障害をもつ小児と家族の看護 2 子どもの自己決定を支えるための看護		11	2	Ⅶ 小児看護技術 1 事例における清潔の援助
3	2	Ⅱ 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 1 入院中の子どもと家族の看護		12・13	4	2 身体計測 3 バイタルサイン測定 4 輸液ポンプ 5 保育器の管理
4	2	Ⅱ 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 2 外来における子どもと家族の看護		14・15	4	6 清潔の援助の実際
5	2	Ⅱ 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 3 在宅療養中の子どもと家族の看護			1	筆記試験
6	2	Ⅲ 検査・処置を受ける子どもの看護 1 子どもの薬物動態と薬容量の決定 2 検査処置各論 1) 与薬(経口与薬・座薬)		【テキスト・参考書】 ・小児看護学各論、医学書院 ・小児看護学概論/小児臨床看護総論、医学書院		
7	2	Ⅲ 検査・処置を受ける子どもの看護 2 検査処置各論 2) 救急処置 外部講師				
8	2	Ⅳ 子どもにおける疾病の経過と看護 1 慢性期・終末期にある子どもと家族の看護				
9	2	Ⅳ 子どもにおける疾病の経過と看護 2 急性期・周手術期にある子どもと家族の看護		【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート ■ ワークの参加度		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	小児援助論Ⅱ			担当講師	専任教員・外部講師
学科名	学 年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第一看護学科	2 年	A・B	1 (30)	講義	令和7年度後期
科目目標 小児に見られる主な症状や健康障害のある小児の看護の基本を習得する。 健康障害をもつ小児と家族の看護の看護過程の展開ができる。					
授業概要 子どもに多く見られる症状の特徴と症状に対する子ども・家族への看護について理解する。 また、代表的な子どもの疾患について身体機能の特徴を想起しながら病態・治療・症状・看護について理解する。					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・⑤・⑥・⑦・⑧・9・10・11・12					
	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	I 小児の主な症状に対する看護 1 発熱を伴う子どもの看護 発熱の原因, アセスメント 子ども・家族への看護	11	2	III 健康障害をもつ小児と家族の看護過程 1 基本的欲求の充足・未充足の判断
2	2	2 嘔吐・下痢を伴う子どもの看護 下痢・嘔吐の原因, アセスメント 子ども・家族への看護	12	2	2 ニード分析, 看護問題の抽出
3	2	3 脱水を伴う子どもの看護 脱水の原因, アセスメント 子ども・家族への看護	13	2	3 看護計画
4	2	4 呼吸困難を伴う子どもの看護 呼吸困難の原因, アセスメント 子ども・家族への看護	14	2	4 一日の看護計画立案
5	2	5 けいれん・意識障害を伴う子どもの看護 けいれん・意識障害の原因, アセスメント 子ども・家族への看護	15	2	5 プレパレーションの実施 6 まとめ
6	2	II 小児に見られる主な健康障害と看護 感染症をもつ子どもの看護			筆記試験
7	2	II 小児に見られる主な健康障害と看護 小児の感染症 小児の腫瘍性疾患 (外部講師)	【テキスト・参考書】 ・小児看護学概論/小児臨床看護総論, 医学書院 ・小児臨床看護各論, 医学書院 ・パーフェクト臨床実習ガイド小児看護, 照林社		
8	2	II 小児に見られる主な健康障害と看護 小児の呼吸器疾患 (外部講師)			
9	2	II 小児に見られる主な健康障害と看護 小児の循環器疾患 (外部講師)			
10	2	II 小児に見られる主な健康障害と看護 小児の消化器疾患 (外部講師)			
			【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート ■ ワークへの参加度		